



速水頌一郎著

海洋時代

東海大学出版会, 1974, 315頁, ¥1,500

大書の著者は、京大を卒業された後、昭和6年中国に渡り、永らく上海の自然科学研究所に勤務され、終戦後の昭和21年、同研究所の解散にともない帰国された方である。その翌年、母校の京大に入り、海洋学、陸水学の講座を担当され、防災研究所の所長、日本学術会議の会員になられたこともある。昭和41年、定年退職の後、東海大学の海洋学部長になられたが、昭和48年、病のため逝去された。

本書は、この長い間に著者が書かれ、講演された原稿を門下生が集め編集して出版した遺稿集である。内容は、

地球物理学の歩み、中国の自然、敗戦から防災へ、沿岸海洋、人生の理想、過去より未来へ、年譜

の7つの部から成立っている。

この表題からもわかるように、非常に広い範囲のことについて書かれてある。近ごろとくに問題になっている世界の気候の変化、環境問題、太陽活動と気象との関係についても、早くから関心をもっておられたことがわかる。

また、長らく中国におられた関係もあって、中国の自然についての生々とした紹介は興味があり、海洋開発についての構想、提言などについても聞くべきものがある。

そればかりではなく、著者のつくられた、頌春、友近先生追悼歌などものせられており、著者の人柄をしのぶよすがともなっている。

紹介者は、数回お会いしたことはあるが、深い接触はなく、したがってくわしいことは知らないが、重厚な方で、如何にも大人という感じを受けた。本書を読んでも、それがしみじみと感じられる。

せせこましい今日、たまにはこのような著書をよみ、悠久の世界に思いをはせることも、わるくはないのではなからうか。

(高橋浩一郎)

気象学会関西支部月例会のお知らせ

題 目：高層大気循環

日 時：49年10月29日（火）13：30～17：00

場 所：大阪管区気象台

プログラム

1. 序言—高層大気循環の諸問題 廣田 勇

2. 太陽風と気象（招待講演） 前田 坦

3. 成層圏超長波と Energetics 岩嶋 樹也

4. プラネタリー波動伝播 川平 浩二

5. 高層大気組成とその変動 福山 董

6. 気象衛星から見た成層圏・中間圏 廣田 勇